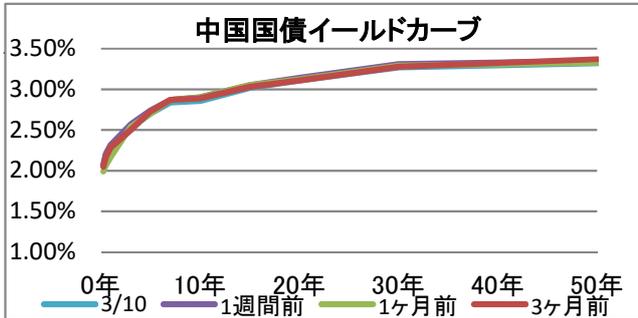
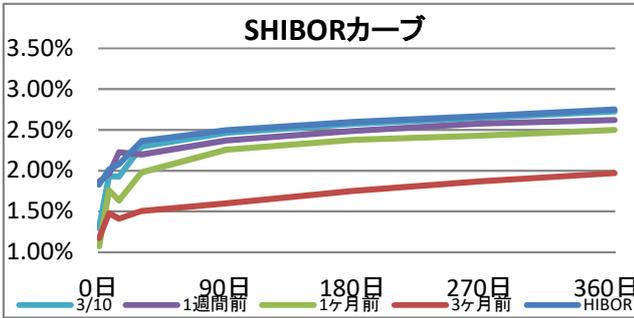


基準レート		2023/3/10	(前週末比)
人民元基準値	USD/CNY	6.9655	+0.0538
	JPY/CNY	5.1145	+0.0569
SHIBOR	3M	2.4970%	+0.0310%
国債利回り	10年	2.86%	-0.04%
上海総合指数		3,230.00	-98.39



(1) 概況

国際金融市場では、パウエルFRB議長の議会証言を受けた金融引締め再加速懸念からリスクオフとなる中、注目の雇用統計が強弱入り混じる内容となり、その後にSVBの破綻が伝わると、債券市場では買戻しが入って利回りが急低下し、株式市場も下落することとなった。外為市場でも週を通じてドル高が進行していたが、金曜日にほぼ前週末の水準まで戻している。

中国金融市場では、全人代開催期間で様子見ムードが強い中、貿易統計やインフレ指数が弱く、FRB議長のタカ派議会証言等から内外経済への警戒感が高まり株価は下落、債券は買戻しが入るも小動きに終始し、外為市場はドル高元安推移。

中国では、全人代で習近平国家主席の3選、李強総理の選出、易綱人民銀行行長の再選が決定され、趙楽際常務委員が香港代表团に対して、香港の長期的な独自の地位、国際金融・運輸・貿易等の地位、自由開放的なビジネス環境の維持等を支援する旨を強調し、秦外交部長が対米批判を展開し、郭樹清銀保監会主席が、過去5年間の金融改革等の成果や金融システムリスク回避を評価。また、国务院等の大幅な組織変更が決定され、金融関係では、証券業界を除く金融業界を一律に管轄する国家金融監督管理総局が設立され(銀保監会は廃止)、中央金融監督管理部門は地方出先機関を主とする地方金融監督管理体制に変更され、証監会は国务院直属機関に再編。また、中国人民銀行の大規模な支店統廃合も決定されたほか、一部報道では、全人代後共産党直轄の中央金融工作委員会を設立する可能性が指摘されている。更に、科学技術イノベーション全体の最適化等を目的とする科学技術部の改組や、データインフラ制度の整備やデータ資源の統合的な共有・開発・利用等を目的に、国家データ局の新設が決定された。金融対外開放面では、クレディスイスの中国合弁会社(クレディスイス証券・中国)が、資産管理事業に関する投資コンサルティングのライセンスを取得したと報道。外交面では、中国の仲介で、イランとサウジアラビアが外交正常化に向けて合意し、中国の動きが注目されている。

(2) 金融市場調節

中国人民銀行は、リバースオペ期日10,150億元に対し、リバースオペ320億元を実施し、ネットで9,830億元を吸収。

(3) 主な経済指標

- ・CPI(2月)は、前年比+1.0%(1月、同+2.1%)と3か月振りに伸びを縮小(前月比も-0.5%とマイナス転化)。物価が上昇する春節の時期ズレ(本年は1月、昨年は2月)要因のほか、本年の春節後の消費一服から、食品(前年比+2.6%、1月同+6.2%)が野菜や豚肉を中心に伸びを低下させたほか、旅行(前年比+3.0%、1月同+11.2%)等のサービス価格も低下。コアCPI(除く食品・エネルギー価格)も前年比+0.6%と1月(同+1.0%)から伸びを縮小。
- ・PPI(2月)は、前年比-1.4%(1月、同-0.8%)とマイナス幅を拡大。春節後の消費一服から消費財価格が前年比プラス幅を縮小させたほか、生産財価格が原材料価格低下や不動産市場低迷等による鉄鋼価格等の大幅下落が続く、マイナス幅拡大。

② 資金市場

(1) 人民元資金市場

	SHIBOR	無担保資金	レポ	NCD AAA
ON	1.8290%	1.6000%	1.6800%	
1W	2.0130%	2.2800%	1.7000%	
2W	2.0800%	2.5000%	2.4000%	1.9500%
1M	2.3640%	2.5500%	2.7700%	2.4800%
3M	2.4970%	2.9000%	2.7000%	2.5000%
6M	2.5960%	3.2000%	4.5000%	2.5900%
9M	2.6700%			2.6500%
12M	2.7500%	3.0500%		2.7200%

中国人民銀行は2月末に大量供給していた資金の回収を進め、3月末(四半期末)も意識され始めているものの、全人代開催中とあって市場は安定推移。ターム物の出合いは、1ヶ月が2.7%台で取引されている以外、出合いは限定的となっている。

NCDも、全人代における経済成長目標が控えめで金融緩和期待が後退し、四半期末を控えて金利低下余地は限定的ながら、経済指標は景気回復期待に水を差す内容で金利上昇も抑えられる格好となり、狭いレンジ内での取引が続いている。ターム物の金利水準は、1ヶ月が2.45%前後、3ヶ月が2.50%前後、6ヶ月が2.6%前後、1年が2.7%台前半で取引されている。

(2) 米ドル資金(本土内)

	BID	OFFER
ON	4.63%	4.64%
1W	4.75%	4.78%
1M	5.00%	5.10%
3M	5.20%	5.40%
6M	5.30%	5.50%
12M	5.50%	5.70%

週末に雇用統計を控えて市場参加者が神経質になる中、パウエルFRB議長のタカ派的な議会証言により金融引締めへの警戒感が一段と高まりビッドしっかりの展開が続いている。ターム物の金利水準は、1ヶ月が5.0%台で取引され、3ヶ月では5.3%が取り気配となっている。

③人民元債券市場

	国債	地方債AAA	金融債AAA	社債AAA	社債AA
3M	2.06%		2.54%	2.65%	2.81%
6M	2.19%		2.61%	2.72%	2.88%
1Y	2.26%	2.31%	2.72%	2.83%	3.00%
3Y	2.52%	2.64%	2.92%	3.11%	3.72%
5Y	2.70%	2.81%	3.11%	3.36%	4.10%
10Y	2.86%	3.05%	3.28%	3.58%	4.42%

四半期末が意識される中で、全人代での経済成長目標が控えめだったことから強力な経済対策への期待が後退し、経済指標が経済回復への期待を失望させる内容となったことから、債券利回りはじりじりと低下する展開となった。米国ではパウエルFRB議長のタカ派発言で債券利回りが大幅に高まっていたものの、金曜日の雇用統計とSVB破綻の報に急低下に転じ、10年国債利回りは4%近辺から3.70%（前週比-25bp）に急低下しており、10年中国国債（2.86%、同-4bp）に対する利回り上回り幅は+84bp（同-21bp）に大幅に縮小している。

イールドカーブは、上記から短期と利率債を中心に総じて低下したことから、これまでのフラットニングが修正される格好で小幅なスティーピングに転じた。クレジットスプレッドも、これまでの相対的に信用債が買われ易かった状況から、利率債の買いが強まる格好で短期を中心に小幅ながら拡大に転じている。

④先物為替市場

	USD / CNY
1M	-171.0 / -170.0
3M	-529.0 / -525.0
6M	-1095.0 / -1083.0
9M	-1615.0 / -1605.0
12M	-2070.0 / -2061.0

対ドル基準レートは6.9655と前週末比+538pipsのドル高元安、対円基準レートは5.1145と同+569pipsの円高元安と、市場でのドル高元安を映じた設定となっている。中国国内市場では、米国でのパウエル議長の議会証言後に次回FOMCでの利上げ幅引き上げへの懸念が高まりドル高となったことから6.9台後半に上昇し、節目の7台が意識される状況となったものの、全人代開催中かつ米雇用統計を控えていることもあって、週後半には6.97を挟んだレンジ取引となっている。

先物は、米国での金融引き締め懸念の高まりもあって国外からの資金流入も活発化せず、米ドル金利上昇により、一時は-2100までマイナス幅が拡大していたものの、-2000台で週末を迎えている。

⑤金利スワップ

	Quarterly 7d Repo A/365	Quarterly 3M SHIBOR A/365 A/360	Annually O-N SHIBOR A/365 A/360
3M	2.35%		1.77%
6M	2.35%	2.57%	1.90%
9M	2.37%	2.61%	1.91%
1Y	2.40%	2.68%	1.98%
3Y	2.66%	3.04%	2.05%
5Y	2.87%	3.28%	
7Y	2.99%	3.42%	
10Y	3.12%	3.54%	

スワップ金利は、債券利回りが低下したことから低下に転じており、債券利回りとの金利差であるスワップスプレッドも縮小に転じている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされまようようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよとお読みください。